



地域連携センター報

REGIONAL COLLABORATION CENTER

Vol. 48

令和8年3月発行

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima
Shobara

庄原地域連携センター長着任挨拶

4月より、庄原地域連携センター長を拝命しました吉野智之(生物資源科学部地域資源開発学科・准教授)です。庄原地域連携センター長は2回目になります。前回は、平成31年4月に就任いたしました。その年の12月に新型コロナウイルス感染症が発生し、本学の教育や研究が揺らぎ、オンラインの活用に戸惑う日々が続きました。本学のシーズ(知恵や技術)を利用する地域連携も難しい状況になりました。そのため、今回は再任とはいえ、新任の気持ちで、積極的に地域と本学とのつながりの手助けをしていこうと考えております。

庄原地域連携センターは、団体や企業だけでなく、個人も含めた様々な課題を大学の知恵や技術を利用して、一緒に解決するとともに、本学の研究成果を地域に還元していくことの橋渡し役です。さらに、生涯学習(学修)の場を提供する役目も担っています。庄原キャンパスだけでなく、県立広島大学全体の窓口でもあります。課題解決や学修などを通して、地域の皆様と歩んでいこうと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。



尾道市立小・中学校の在り方検討委員会

尾道市では、尾道市立小・中学校の在り方検討委員会を設置し、教育長の諮問を受けて、学校の在り方について検討しています。生物資源科学部生命環境学科の藤井宣彰准教授が委員を務めています。

8月8日の第1回委員会では、藤井准教授が委員長

に選出され、宮本佳宏教育長から諮問が行われました。その後、グループ協議で自由に意見を交流しました。

10月9日の第2回委員会では、美木原小学校校長より、平成29年に開校した後の学校の様子について実践報告がありました。その後、「尾道教育の目指す学校像、子ども像」についてグループ協議を行いました。

12月19日の第3回委員会では、尾道みなど中学校校長(代理)より、開校1年目の取組について実践報告がありました。その後、「尾道教育の目指す学校像、子ども像の実現に向けた ①学校の形態について ②適正な学校の配置や規模について」をテーマにグループ協議を行いました。

2月10日の第4回委員会では、「尾道教育の目指す学校像、子ども像の実現に向けた ①適正な学校の配置や規模について ②新しい時代の学びを実現する学校施設について」をテーマに協議を行いました。

来年度にかけて委員会を開催し、令和8年夏に答申を行う予定です。

公開講座

庄原市教育委員会と本学との共催で庄原市民公開講座が開催されました。

「庄原市民公開講座(前期)」

「集まれ!小学生、中学生!!理科実験は大学の実験室から始まる」をテーマに、実験講座を8月25日と8月26日の2日間にかけて本学庄原キャンパスにて開催しました。

初日は、生命環境学科環境科学コースの柳下真由子准教授が担当し、小学生を対象に、「紫外線を感じてみよう!」というテーマで実施しました。紫外線ビーズで紫外線の強弱を観察したり、紫外線に晒されると色の変化が生じる特殊な紙を用いて日に当てると色が変わる作品を作ったり、実験を楽しんでいました。

2日目は、地域資源開発学科の山本幸弘教授が担当し、中学生を対象に、「ハウレンソウから脂溶性色素を抽出してみよう！」というテーマで実施しました。参加者は4名と少なかったのですが、研究室に所属している学生とマンツーマンで実験を行うことができました。乳鉢や乳棒の他、分液ロートやロータリーエバポレーターといった実験器具に触れ、また、薄層クロマトグラフィーといった大学の研究室で普段行われる実験を行いました。難しい内容もありましたが、みんな興味深く取り組んでいました。参加者アンケートでは、「楽しく実験できました！」「色々な野菜の成分も調べてみたい！」といった意見がありました。



2日目の実験風景

「庄原市民公開講座（後期）」

「庄原市を取り巻く文化・歴史・連携」のテーマで、令和8年2月に開催されました(全3回)。延べ69人が受講されました。

第1回は、生物資源科学部地域資源開発学科の馬本勉教授が、研究テーマでもある庄原英学校を始めとして、格致学院、日彰館、三次中学、庄原実業学校などを通じた教育の歴史や他の地域の教育者との交流について話しました。

第2回は、地域基盤研究機構の島川龍載特命准教授が中山間地域の医療について話しました。医療のみの問題ではなく、社会構造や新しい視点で考えることが重要であると述べていました。

第3回は、生物資源科学部地域資源開発学科の吉野智之准教授が庄原市民と県立広島大学との連携について話しました。連携の方法や制度、自身の連携実績を挙げながら連携の重要性を述べていました。各講座後は、受講生と講師の会話に花が咲いていました。

庄原市民公開講座は、新型コロナウイルス感染症の影響による1年の休止を挟んで、通算35回(36年)を迎えました。

回	テ ー マ	講 師
1	庄原英学校から備北教育の広がりを考える	生物資源科学部 教授 馬本 勉
2	つながりで支える中山間地域のこれからの医療	地域基盤研究機構 特命准教授 島川 龍載
3	庄原市民と県立広島大学の連携	生物資源科学部 准教授 吉野 智之



第1回の講座風景

受講者は、第1回23名、第2回24名、第3回22名の延べ69名でした。うち、2回以上受講した22名に修了証を交付しました。

令和7年度履修証明プログラム「食品科学の基礎と開発のヒント（JFSM 食品安全研修）」

今年度の履修証明プログラムとして「食品科学の基礎と開発のヒント（JFSM 食品安全研修）」を開催いたしました。

本プログラムは、本学の初めての試みとして庄原、広島、三原の3キャンパスに所属する13名の教員が出講し、それぞれの専門性と本学の特色をキャンパス横断的に活用して、食品科学の基礎からその応用例まで幅広く講義する形式としました。加えて、(一社)食品安全マネジメント協会に認証された食品安全研修も組み込み、食品業界ですぐに役立つ知識と技能を教授できる全60時間のプログラムとなっております。

今年度は、県内外で食品関連事業等に従事されている7名の方にご受講をいただき、5月から9月の間に4つの分野からなる34のオンデマンド講義と

6月にサテライトキャンパスひろしま(広島市中区)にて実施しました2日間の食品安全研修の対面でのグループワークを経て、最終的に6名の方にプログラム修了証を、受講者全員にJFSM食品安全研修修了証を交付させていただくことができました。

来年度も食品関連事業等に従事されている皆様を対象として継続して本プログラムを開講し、本学の社会貢献に寄与していきたいと考えております。



食品安全研修のグループワーク

サテライトラボの活動

庄原キャンパス「サテライトラボ」は、国営備北丘陵公園北口エリアにて展開されている庄原市の社会実験「里山の駅 庄原ふらり」エントランスセンター国兼の2階スペースに令和6年8月1日に開設しました。「サテライトラボ」は、全国初となる国営公園に併設した常設型の大学施設です。

本学の機能の開放と交流を可能とするオープンスペースとして、本学の地域貢献力を強化するもので、地域のサポートを頂きながら庄原キャンパスが管理運営しています。

土日を含む週3日程度の通常開館時には、動植物や微生物試料の顕微鏡観察などの科学体験や木製ネームタグのレーザー加工体験を提供しています。また、しょうばら産学官連携推進機構と共に取り組んでいる大学教員の取組を分かりやすくお話しする「地域連携セミナー」を月1回のペースで開催しています。

さらに、地元の祭りなどのイベントにブースを出店して、木材加工体験や本学庄原キャンパスの植物工場で栽培された野菜の販売なども行っており地域交流に努めています。



サテライトラボでの地域連携セミナー

詳しくは公式ホームページや、公式SNSの他、庄原市の公式SNSや備北丘陵公園の公式SNS等を通じて発信される情報をご覧ください。



SHOBARA_PARKLAB

編集後記

地域連携センター報第48号をお届けします。本号では、庄原地域連携センター長着任挨拶、尾道市との連携、庄原市民公開講座、履修証明プログラム、サテライトラボを紹介しています。

新型コロナウイルスによる制約もなくなり、学内及び地域での活動も以前のように活発になってきております。地域の皆様と協働で連携活動を推進して参りますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

編集発行



県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東1丁目1番71号
電話 (082) 251-9534/E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp
<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

各キャンパス問い合わせ先

地域基盤研究機構庄原地域連携センター [本号編集担当]
〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地
電話 (0824) 74-1000/E-mail:gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

地域基盤研究機構三原地域連携センター
〒723-0053 広島県三原市学園町 1 番 1 号
電話 (0848) 60-1120/E-mail:mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp